

記 事

○第8回理事会(昭.27.1.11)出席者:大西会長,稲浦,立花両副会長,西松,今岡,本間,米元,高畑,樺島,仁杉,丸安の各理事,協議事項:(1)第6回工学会大会については本間理事が工学会理事会で協議の上次回に提案のこと,(2)米国技術百年祭についてASCE及びCentennial of Engineering, 1952からの来信について中川書記長から説明,近く正式招請状がある筈であるから代表者の選定はその上で決定すること,(3)Mr. Cotton(ダム技術者)の来日についてMr. L. von Hornleinからの照会に対しては時期的に間に合わないから,改めて相談する,(4)会誌発行日を本年から毎月15日発行のことを了承,(5)昭和27年総会及び第8回年次学術講演会については大綱を次のように決定。

総会期日:5月24日(土)午後,場 所:東京大学
講演会期日:5月24,25日,見学会期日:5月26日
講演要項:(1)1人1題とする,(2)未発表のものとする,(3)3月20日までに各支部え題目及び概要等必着のものに限ること,(4)講演部門を決めて希望部門を指定して貰うこと,(5)土木賞受領者に講演を依頼すること。

見学先:次回で決定

(6)第5回理事会で製図規格委員会を設置することとし,委員長に福田武雄氏を推すことに決定したが,同氏と協議の結果,次の諸氏に委員及び幹事を依頼することに決定。

委員:菊地洋一,八十島義之助,村上永一,河野通之,河野康雄,丸安隆和,佐島秀夫,高畑政信,水越達雄

幹事:八十島義之助,榎本歳勝

(7)土木工学ハンドブック編集について第5回理事会で福田武雄氏を委員長とする委員会を設置することに決定したので,同氏と協議の結果次の諸氏に委員を依頼することに決定。

1. 数表及び数学	福 田 武 雄
2. 応用力学	小 西 一 郎
3. 土性及び土質力学	最 上 武 雄
4. 水 理 学	本 間 仁
5. 測 量	丸 安 隆 和
6. 材 料	松 村 孫 治
7. コンクリート及び鉄筋コンクリート	国 分 正 胤
8. 橋 梁	友 永 和 夫, 平 井 敦 立 花 次 郎, 富 田 恵 吉
9. 鉄 道	清 水 雄 吉
10. 道 路	佐 藤 寛 政
11. 都 市 計 画	松 井 達 夫
12. 港 湾	黒 田 静 夫
13. 河 川	山 本 三 郎
14. 砂 防	木 村 弘 太 郎
15. 発 電 水 力	市 浦 繁
16. 上 水 道	岩 井 四 郎
17. 下 水 道	杉 戸 清 一
18. ダ ム	佐 藤 志 郎

19. 施 工	藤 井 松 太 郎
20. 基 礎 工	高 木 進
21. 熔 接	田 中 五 郎
22. 隧 道	加 納 俊 二
23. 地 質	広 田 孝 一
24. 気 象, 地 震, 建 築 学	は 委 員 長 が 交 渉
25. 農 業 土 木	清 野 保
幹 事 長:	丸 安 隆 和
幹 事:	八 十 島 義 之 助, 柴 原 孝 六 郎, 高 橋 克 男

○各種委員会

1. 編集委員会(昭.27.1.19,20)出席者:本間,米元正副委員長外各委員,小西(関西),荒井(中部),地方委員,協議事項:(1)原稿審査報告及び新原稿の審査委員の決定,(2)第37巻第3号登載論文を下記の通り決定した。

最上武雄:米国における土質力学研究の現況,小西一郎外2名:国鉄瀬田川橋梁橋脚の列車振動特性,渡部彌作:河口港の諸問題について,北郷繁:トランシット及びレベルの気泡管の感度数について,坂元左馬太:最近の単徑による高架線の経済的形式,合田健:砂炉過における損失水頭および圧力水頭の計算について,松尾新一郎:塑性図に示される土のコンシステンシーの特性について,成岡昌夫・米沢博:試作せる電気抵抗線用歪指し器及び切換調節装置。

(3)討議及び寄稿依頼先協議,(4)土木賞候補論文として学会賞7篇,奨励賞8篇を選定し,各担当委員は要旨及び推薦理由を1週間以内に提出のこと,(5)その他。

2. 用語委員会(昭.27.1.18)出席者:福田委員長,菊池,増村,奥村,田中,扇田,山田,飯塚,当銀(代)佐島,久保(以上学会委員)森,井口(以上学会委員及び分科審議会専門委員)福田,河口(代)(以上分科審議会専門委員),協議事項:(1)地方に転任になった小野一良,岡田秀穂両氏の後任に星野陽一氏,野瀬正儀氏の後任に水越達雄氏を委嘱する,(2)一応原案がまとまったが訂正追加を要する点があれば2月8日までに担当部門の訂正箇所をまとめて再審議すること。

3. 第1回製図規格委員会(昭.27.1.21)出席者:大西会長,福田委員長,菊池洋一(代深谷),河野通之,河野康雄,佐島秀夫,高畑政信,丸安隆和,水越達雄(代)村上永一,八十島義之助の各委員及び橋本幹事。経過:(1)大西会長から本委員会設置の趣旨を説明,各委員の尽力方を懇請し,福田委員長の挨拶があり,(2)本委員会と工業標準規格製図規格委員会との関係について,委員長及び八十島委員から説明があり,質疑応答の後,本委員会としも,支障がない限り,なるべくその規定に従うこと,(3)委員等の異動及び追加委嘱,(a)八十島委員の幹事辞退を承認,(b)委員に深谷俊明,樺島正二,粕谷逸男の諸氏及び地理調査所の真塩抜官を追加委嘱する,(c)幹事に田村浩一氏を追加委嘱する。(4)次の部門に分けて審議する。一

般、鋼構造、コンクリート構造、木構造、鉄道、道路及び都市計画、河川関係、地図、なお発電水力、港湾等について、特別に規格を作る必要はないようだが審議状況を見な上で改めて考慮する、(5) 成果の発表方法は工業標準規格に取入れられるか如何かは別問題とし会員その他一般土木工学界に寄与する目的を以て規格を定め解説を附して、学会から公刊する。

4. 第1回土木工学ハンドブック編集委員会(昭. 27. 1. 21) 出席者: 大西会長, 福田委員長, 小西, 最上, 丸安, 松村, 国分, 友永(代), 富田(代), 清水, 黒田, 山本(代), 市浦, 岩井(代), 佐藤, 藤井, 田中, 加納, 清水の各委員, 柴原(代), 高橋の両幹事。経過: 大西会長から本委員会設置の趣旨を説明し、併せて各委員の尽力方を懇請次いで福田委員長挨拶の後、議事に入った。議事: (1) ハンドブックの性格は一般的知識を有する技術者を対象とし、実際に当つて有用なものとし、(2) 体裁はA5判, オフセット刷, 刷上り6ポイント大, 2段組, 1段52行, 1行25字詰, 1頁2600字, 本文1200頁とし、目次、索引等を含み総頁1500頁程度とする。(3) 委員及び幹事の内杉戸清辞退に対して若井委員に、八十島幹事辞退については了承し、後任は別途考慮、気象、地震、建築については委員長から内意を伺うこと、(4) 委員会の構成、任務及び事業進行順序等は大体原案の方針を原則的に承認したが各編の頁数は一応幹事が作成して各委員に通知し次回で審議する。(5) 各主査はそれぞれ担当の編の内容の予定及び執筆者案を2月16日(土)までに学会に通知する、(6) 幹事は前項の資料を整理し次回委員会会で審議決定する。

5. 第1回地氾り対策委員会(仮称)(昭. 27. 1. 30) 出席者: 大西会長, 最上, 星基, 八十島, 多田, 岩塚, 鈴木, 原口, 伊崎, 池田の諸氏, 協議事項: 大西会長から本委員会設置の経過を述べ各委員の尽力方を要請し、沼田委員長病氣中のため最上委員に委員長代理を委嘱し議事に入る。(1) 経過報告、(2) 委員に多田文男氏を、幹事に八十島義之助、三木五三郎、渡辺隆、門田正也、岩塚守公、高橋好郎、伊崎晃、池田俊雄の諸氏を追加委嘱すること、(3) 本委員会の研究目的は長大法面及び高築堤の崩壊防止に関する広範囲の研究

であるので、この趣旨を体する適当な名称を伊崎幹事の下で研究、(4) 研究方針として(イ)過去の実例及び現状の調査、(ロ)土質工学的及び植物学的調査研究、(ハ)各委員の従来の規程及び研究業績を持寄つて次回に検討すること、(5) 本研究は本年度以降にまで研究が継続せらるるものと考えられるが一応3月20日までに中間報告をまとめること。

○その他

(1) セメント技術協会では来る5月13~16日に第6回セメント技術大会を日本工業クラブ講堂で開催するとので通知に接した。

(2) 日本工学会では第6回大会を開催する予定であるが⑥の陸運の現状と将来に対する講演者を推薦せられたいと申出があつた(お知らせ欄参照)

支部だより

1. 中部支部 (1) 第10回幹事会(昭. 27. 1. 10) 出席者: 奥田幹事長外各幹事, 協議事項: (a) 1月座談会, (b) 2月公開講演会, (c) 3月見学会, (d) 3月役員会, (e) 3月学生見学会, (f) 土木賞候補者推薦は荒井氏に一任, (g) 水理委員会委員推薦については学会と分離した存在とならないようにして貰うこととし、学校、地建、電力会社から各1名推薦すること、(h) 学術会議第5部会が2月15, 16日頃名古屋市内で開催されるので土木学会として後援する、(i) 中部支部大会論文集作製について、(2) 役員会(昭. 27. 1. 16) 出席者: 大西会長, 立神支部長, 永田, 比企野顧問, 松見常議員, 奥田幹事長, 各評議員, 各幹事, 協議事項: (a) 福井県の関西支部編入希望について申出があつたが総意と認め難い点があるので今しばらく時期を待つこと、(b) 学術会議に出来るだけ後援する。続いて(3) 座談会を開催、電源開発その他について、先づ石川中電副社長から同社管内の電源開発事情の説明があり、資金面で開発が早急に進まない点を述べられ、大西会長は全国的開発問題、当面の電力不足を緩和する方策として消費の合理化、既設設備の改良、国民全体の協力、経営の合理化等の諸問題があることを強調し料金の適正化、割当制の検討、資金の蓄積等詳細な話題が取交わされ和気藹々の裡に17時散会。

昭和 27 年 1 月分入退会報告 (1.1~1.31 現在)

1. 入会	85名	(特別員2, 正員35, 准員37, 学生員11)
2. 退会	33名	(正員10, 准員20, 学生員3)
3. 転格	5名	(准員より正員5)

会 員 現 在 数 (27. 1. 31 現在)

名 譽 員	賛 助 員	特 別 員	正 員	准 員	学 生 員	合 計	増 加 数
16	13	221	4 481	4 924	1 044	10 699	52

昭和 27 年 2 月 10 日 印刷 土木学会誌 定価 80 円
昭和 27 年 2 月 15 日 発行 第 37 卷 第 2 号

編集兼発行者 東京都千代田区大手町2丁目4番地 中川一美
印刷者 東京都港区赤坂溜池町5番地 大沼正吉
印刷所 東京都港区赤坂溜池町5番地 株式会社 技報堂

東京都中央局区内千代田区大手町2丁目4番地 電話和田倉(20)3945番

発行所 社団法人土木学会 振替東京16828地